

長野農業農村支援センターだより

令和6年10月号

小川村で地域計画策定に係る座談会が開催されました！



「地域計画」とは、これまで地域農業の将来の在り方を示した「人・農地プラン」が、令和6年5月の農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い法定化された計画です。地域農業の在り方を示す「人・農地プラン」に、「目標地図」を添付して策定されます。

小川村では、この目標地図を策定するため、地区ごとに座談会を開催しています。この中では、各地区の農業の担い手の方が、農地利用の意向調査結果を反映した目標地図の素案を見ながら、農地1筆ごとに10年後の耕作者をふせんに書いて張り付けます。

「この農地は俺がやるから、そっちの農地は〇〇さん頼むよ！」「ここは荒れているけど草刈りだけでもなんとかやるか」「あそこはもうできる人がいないな……」など、地域の農業・農地を将来どうしていくのか真剣に話し合う姿がとても印象的でした。

他の市町村でも地域計画の策定が進んでいます。地域の話し合いの場が開かれる際は、ぜひご参加いただき、地域の農業をどんな農業にしていきたいか、大切な農地を、どう守り、次の世代につないでいくかを住民、関係者らが一緒に考えてみてはいかがでしょうか。

発行 長野農業農村支援センター 技術経営普及課

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

電話 026-234-9536 FAX 026-235-8393

Eメール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/nagachi/nosei-aec/index.html>

目 次

○農作物の生育状況

- ・ 9月16日現在 1

○農作物技術情報(9月)

< 作物 >	3
< 果 樹 >	10
< 野 菜 >	11
< 花 き >	13
< 畜 産 >	15
< き の こ >	19

○地域のできごと

- ・ 長野県農業士協会の北信ブロック研修会を開催しました 21
- ・ 農村女性ネットワークさかきと
長野市農村女性ネットワーク研究会の交流会が行われました！ 22

○農業農村振興課から

- ・ 農作物盗難防止啓発チラシ 23
- ・ 未来につながる持続可能な農業推進コンクール 24
- ・ 環境にやさしい農業認定制度について 26
- ・ 信州の環境にやさしい農業定着・拡大支援事業 申請者募集中！ 28

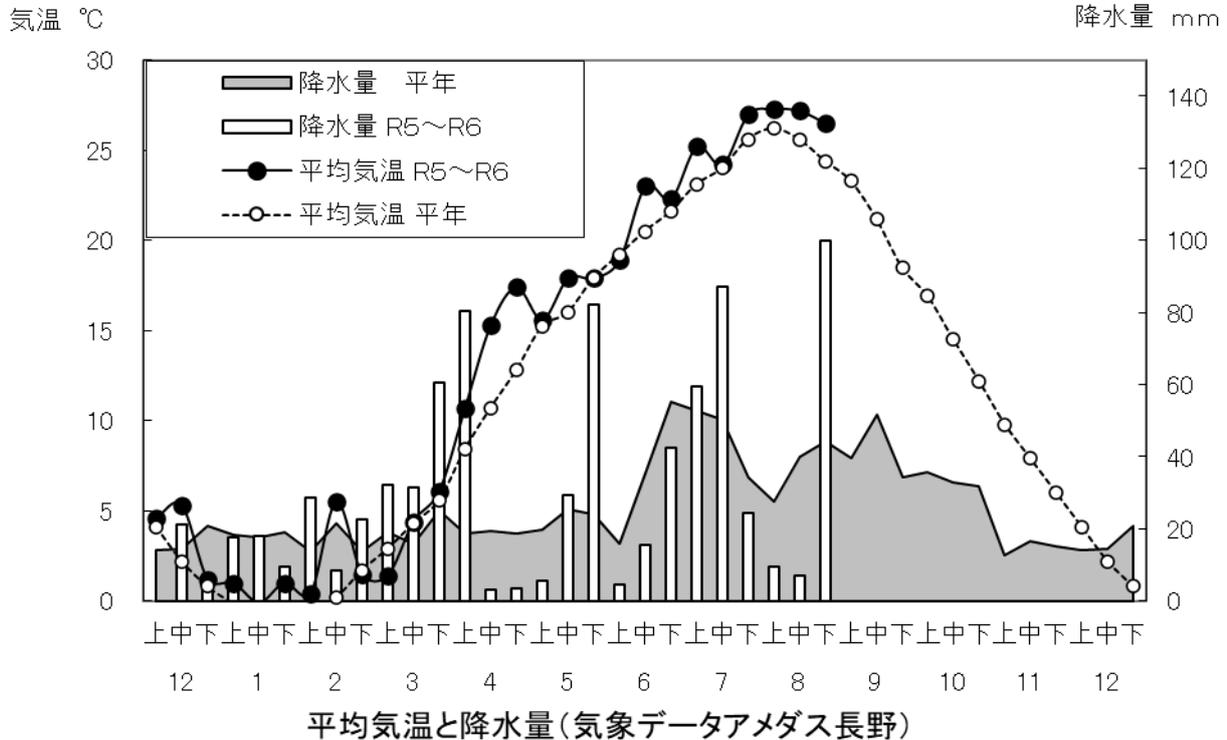
○来月の予定 29

農作物の生育状況（9月16日現在）について

令和6年9月16日

長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稲

9月1日から収穫が始まり、現在収穫盛期を迎えている。8月下旬の降雨の影響で広い範囲で倒伏が発生している。出穂が早かったほ場ほど成熟期も早まっているが、落水後に降雨が続いたため、成熟期に達していてもぬかるんだほ場が多い。病虫害については、千曲市、長野市鬼無里で穂いもちが確認されている。信濃町および高山村における斑点米カメムシの掬い取り捕獲量は平年並み。また、クサキリ類、ニカメイチュウ等による白穂が平年より目立つ。

(2) 大豆

麦後は播大豆は、着莢期～子実肥大期を迎えている。播種の遅かったほ場では湿害による黄化が見られる。雑草の発生が平年より多く、大豆出芽後に雑草の甚発生により耕起したほ場もあった。

(3) ソバ

秋ソバは出芽揃いは良かったが、8月下旬の降水量が多かったため、信濃町や千曲市等の水はけの悪いほ場では湿害により生育が抑制されている。また、丈が長く倒伏しているほ場が多い。

【果樹】

(1) りんご

全体的にどの品種も生育が進んでおり、外観の着色よりも内部の酸抜けや硬度低下が早く、内部先熟となっている。夜温が下がらない状況が続いているため、「つがる」、「シナノドルチェ」等は着色不良のまま収穫期を迎えている。肥大は良好で、「ふじ」の9月1日肥大調査では前年比縦99%、横99%、平年比縦100%、横99%とともに平年並みとなっている。また、褐斑病や黒星病が散見される園地や、炭疽病やすす斑病、すす点病の発生が目立つ地域も見られる。

(2) ぶどう

ナガノパープルの収穫はおおむね終了してきている。肥大は良好で、急な降雨によりナガノパープル、クイーンスター®等で軽微な裂果が発生している。特にナガノパープルでは、果てい部での裂果が多くみられる。熟度調査では、シャインマスカットが糖度が上がりきらずに酸抜けしてきている。

(3) なし

「南水」はほぼ収穫終了となった。高温により内部先熟が進んだことにより、例年より硬度が低い傾向となった。着色及び糖度の上昇は順調であった。

(4) 核果類

ナシヒメシンクイの飛来が9月に入ってから急増しており、次年度の芯折れ当の被害増加が心配される。また、品種問わず縫合線の青み果が一部見られた。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型はいずれも立茎中で、夏秋どり中だが、一部で斑点病等の病害が目立つ。

(2) 果菜類

半促成加温作型のキュウリが収穫後期となっている。無加温の作型は夜温が低く推移していたこともあり、生育は遅れた。抑制トマトの生育は、ほぼ順調であり、収穫中である。

全般にオオタバコガの被害が見られる。

ピーマンの収穫が各地で最盛期となっている。高温の影響か、生長点付近の葉の展張が悪いこともあり、日焼け果や尻ぐされ果が多い。高畝としたほ場で、マルチ下の乾湿の差や高地温の影響で根が障害を受けたためか、日中高温時に萎れる株が見られた。

【花き】

(1) トルコギキョウ

抑制作型の6月下旬定植物は、開花期、出荷終盤を迎えている。7月中旬定植物は、草丈40～50cm程度で出蕾期、生育は前進傾向である。オオタバコガの被害が目立ってきている。

作物

【雑草イネ】

1 雑草イネとは

雑草化したイネのことを、通称「雑草イネ」と呼んでいます。いろいろなタイプがありますが、最も問題になる雑草イネには以下の特徴があります。

- 種皮（玄米）が赤い。このため、通常の玄米に混ざると検査上異種穀粒として品質が低下します。
- 脱粒性が極めて高い。出穂後2週間で脱粒し本田内で増加します。対策をしなければどんどん増えます。
- 稲であるため、イネの栽培に用いる除草剤では枯れない。枯らすにはごく初期の発芽段階で効果のある除草剤を散布することが必要です。

雑草イネが一度増えると、本田内の雑草としてまん延し、なかなか絶やすことが出来ない厄介な存在となります。落ちた籾は土と共に機械に付着し、分布を広げます。大規模な出荷農家の方は色彩選別機で抜き取るという方法に頼ることが多いですが、爆発的に増えてしまつては処理能力ではカバーできない、栽培イネの減収要因になる等の事例もあります。また、総合的なデメリットから作業受委託への制限要因にもなります。



支援センターには以下のような経路で報告があります。

- ライスセンターの調整作業時に赤米が発見される。

このような時は、ほ場の来歴をさかのぼり、有色米か雑草イネか可能性を評価、判断できない場合は来春に発生を確認に行きます。（古代米などに多い有色米は栽培イネのため、脱粒性が低い通常の稲です）

- 水田に多くの「植えてない稲」が生えている。これはいったい何だろう、との問い合わせから。

このような時はほ場を確認し、イネの形態や脱粒性の状況などから総合的に雑草イネであるか判断します。

長野管内で見られる雑草イネは大きく2タイプあります。

- ① Aタイプ：ふせん色（籾の先の色）や芒が赤く、稈が長い。長野市南部、坂城町などに分布。
- ② Dタイプ：ふせん色が赤いが黄熟によってわかりにくくなる。稈はコシヒカリと同等。コシヒカリに

紛れると見つけにくい。濡れると籾が透けてオレンジ色に見える。飯綱町、北信地域。

また、これらが栽培イネと交雑し、地域に定着した中間形態のものも見られます。

<Aタイプ>

栽培イネとは熟期が異なります。手前でそよいでいるものは雑草イネです。



少数の雑草イネが生えている時、これを抜くには一度田んぼに入って、脱粒前に抜き取れば良いですが、これを怠ると次の年には数10本、数100本となり、近隣に飛び火をすれば地域全体の問題として、長い期間、労力・金額ともに大きな対策を強いられることとなります。

発生の少ないうち・初めて見かけた時が、対策を行うべき一番の適期です。

2 対策

対策は除草剤だけではなく、耕起や代掻き、転作なども視野に総合的に行います。

時期	内容	ポイント
収穫・調整時	発生ほ場の収穫や調整は最後に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・機械を介して他のほ場へ広めないため。 ・耕起、代掻き、田植えなど、他の行程も同様に、発生ほ場の作業は最後に行うようにします。
秋耕起	行わない。	<ul style="list-style-type: none"> ・秋～冬季に田面の脱粒種子の芽を動かし、厳冬季に凍結枯死させます。 ・粃が土の中に潜ると、種子の寿命がのびます。 ・爆発的に発生した水田では、秋に再生した個体を非選択制除草剤で枯殺することも有効です。
代掻き	複数回行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・代掻き後、発芽した雑草イネ個体を、もう一度代掻きを行うことで死滅させます。 ・7～10日ほど時間をおいて、数回行えば、前年の発芽個体はかなり減少します。
移植期	除草剤施用	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>効果のある除草剤※</u>を用いる。※JAや支援センターに助言を求めましょう。 ・雑草イネの種は代掻き直後から動き出します。多くの薬剤で出芽直後にしか効果はありません。代掻き直後、（もしくは移植直後）をスタートに、約10日間隔の3剤体系で30日間、雑草イネの発生を防ぎます。タイミングが非常に大切です。
中干前	抜き取り	<ul style="list-style-type: none"> ・条間や株間から生えてきた、植えていない稲（漏生稲）を抜き取る。この時期の稲は体が小さく抜くことが容易です。水面も見えるため確認も容易であり、前年発生が見られたほ場ではぜひこのタイミングの抜き取りをお勧めします。
出穂期	抜き取り	<ul style="list-style-type: none"> ・出穂期の差、また稈の長さ等を目安に、抜き取りを行います。 Aタイプは目立ちますが、Dタイプはコシヒカリとほぼ丈も同等でこの時期の抜き取りは容易ではありません。雨のあとなど粃が濡れている時、栽培稲ど色が異なることで識別が容易です。 ・出穂から2週間で脱粒が始まります。脱粒前に抜き取り、水田ではないところへ廃棄しましょう。

- すべての対策を行えば、雑草イネの発生は確実に減少します。しかし土の中に潜った粃は、3年程度発芽能力を持っているため、一度多発したほ場では、なかなか完全には無くなりません。少発生になれば抜き取りは容易になるので、全体の発生数を低減させた後、丁寧な複数回の代掻き、効果のある除草剤の選定、漏生稲の抜き取りなど、各経営体の作型にあった対策を組み合わせ対処していきます。
- 石灰窒素の施用なども除草効果が認められています。この場合は窒素成分が残るため、翌年は減肥が必要になります。具体的な量や方法は、支援センターにお尋ねください。
- 晩植も雑草イネ発生の低減効果があります。春先以降、動いた粃が遅い時期の代掻きで多数死滅するためです。また、最も効果の高い方法は畑作物への転換で、爆発的に増えてしまったところでは転作も検討されます。

【水 稲】

1 籾の乾燥・調整

籾の仕上げ水分は、品質に重要な要素です。乾燥させすぎると胴割れが多発し、水分が過剰だと貯蔵性が劣ります。胴割れは刈り遅れだけでなく、乾燥作業のミスでも発生します。26%以上の高水分籾での乾燥初期や、循環型乾燥機で張り込み量の少ない時などには、急速に乾燥して胴割れ米が増えるので送風温度を下げるなど、胴割れ防止に努めます。

乾燥機には水分測定器がついているものが多く、自動で目標水分に調整できます。乾燥を始める際には、最初に手持ちの水分計と乾燥機の水分測定器が正しいか確認します。また、青米の混入率により、乾燥終了後の水分が変動するので注意して下さい。

なお、ハゼ架けの場合は好天が続くと短期間に乾燥するため、こまめに籾水分を確認します。籾摺は必ず乾燥終了後、穀温を常温に戻してから行いましょう。

【水分計使用時の注意点】

- ①電池は新品を使う。
- ②事前に測定精度をチェックしておく。(正しい測定器とあわせておく)
- ③必ず籾を放冷してから測定する。
- ④測定器が常温であることを確認する。
- ⑤青未熟米やくず米を除く。
- ⑥穀粒の破砕機部分が磨り減っていないか確認する。(磨耗していると精度が下がる)

2 異種穀粒、異物、異品種の混入防止

(1) 収穫作業前

収穫前にはほ場を見回り、異品種が混在している場合は抜き取ります。

例：「もち」ほ場の「うるち」品種の混在

玄米に混入する主な異物には、小石、ガラス、ほ場内の雑草種子、畦畔や周縁部に自生する植物の種子、籾などがあります。

混入を防止するためには、収穫作業前にはほ場内及び周縁部の以下を確認します。

- ・空きビン・ゴミ等がないか点検し、ガラスや金属片などの混入防止を図ります。
- ・クサネムなど種子が大きく選別で除去できないものなども取り除きます。

加えて、コンバインや各設備などの清掃・点検を徹底するとともに、施設内に野鼠や昆虫が侵入し

ないように、対策を講じます。

(2) 収穫時

雑草の発生が多いほ場などを収穫した場合には、必ず乾燥・調整担当者に伝達し別処理等の対応を行います。

(3) 乾燥調製時

乾燥機の周辺は、常に清潔に保ち、こぼれ落ちた籾は投入しないようにします。また、乾燥時には、乾燥機に品種名を表示するなど、品種の取り違えに注意しましょう。

【麦】

麦の安定生産の基本は、適期は種、排水対策、適正施肥と酸度矯正です。管内では雑草害による影響も大きく、雑草防除も安定生産には必要な処置です。

1 酸度の矯正

麦は酸性土壌では生育できないので、大麦で 6.5、小麦で 6.0 の pH を目標に炭酸苦土石灰等で酸度を矯正します。水田の pH は 4～5 の酸性土壌が多いので、水稻跡・転換畑では特に注意し、必ず実施します。

2 湿害対策

麦は、湿害に弱く、転換畑で生育が劣る原因のほとんどは湿害となっています。水田に麦を導入する場合には、必ず排水対策を実施します。

排水対策はほ場条件により異なりますが、本暗渠、補助暗渠、排水溝などを組み合わせ、排水口は必ずほ場外へ排水するよう設置します。

3 適期は種

麦の収量は越冬前の生育量によって大きく左右されます。麦は、4葉期頃から寒さに馴化し耐寒性を獲得しますが、2～3葉期は胚乳の養分が終わって、根張りも浅く、越冬性が極めて弱い時期です。越冬障害を受けないよう、越冬前に**葉数4葉・茎数2～3本**／株を確保するとよいでしょう。

は種が遅すぎると、越冬前の生育量不足で寒害・凍上害・雪害等の越冬障害を受けやすく、茎数・穂数不足により減収となります。一方で、極端な早播は生育が進みすぎ、過繁茂による軟弱徒長・倒伏、幼穂凍死の多発により減収となります。

標高 500m 以下の場合には、10月下旬から11月中旬までには種を行います。

4 は種量

普通栽培では 5 kg/10a、ドリル播では 8 kg/10a を基準とします（大粒品種は千粒重に応じる）。また、寒地・晩播では、は種量を多くします。特に晩播の場合には、2週間の遅れで 30%、20日以上の遅れで 50%増量します。

5 は種後の雑草防除

除草剤にはは種直後に土壌表面に施用する「**土壌処理型除草剤**」と、生育期に雑草の「**茎葉に散布する除草剤**」があります。優占雑草によって効果のある剤が異なりますので、除草剤の選定は草種に応じたものを選びます。越冬前に雑草の繁茂が見られるほ場では、土壌処理型除草剤を活用しましょう。薬剤の選定に迷った場合は、農協、支援センターに相談しましょう。

7 コムギなまぐさ黒穂病の防除

令和5年に管内でコムギなまぐさ黒穂病の発生が確認されました。ほ場でなまぐさ黒穂病が見られた場合は、次頁により対策を実施しましょう。

コムギなまぐさ黒穂病の対策について

令和5年7月24日

長野農業農村支援センター

令和5年に管内で「コムギなまぐさ黒穂病」の発生が確認されました。「なまぐさ黒穂病粒」は農産物検査基準で病粒の混入率の最高限度が示されています。また病粒は独特の「なまぐさい臭い」がすることから、収穫物に混入することで収穫物全体を汚染し、健全粒の品質・商品価値を下げます。「コムギなまぐさ黒穂病」の病原菌はいくつかの種類がありますが、本県で今年確認されたものは以下のものです。

病名：コムギなまぐさ黒穂病（英名：Wheat Bunt）

病原菌：*Tilletia caries*（網なまぐさ黒穂病菌）

特徴：

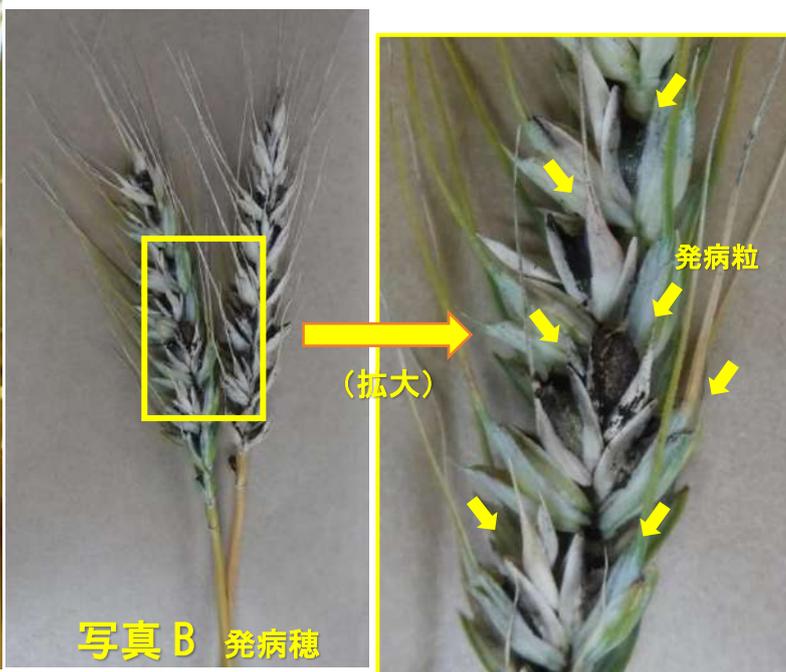
- 種子伝染と土壌伝染の両方を行う。
- 麦の発芽時に感染する。
芽生えのごく初期、子葉鞘が伸び始めた時が一番感染しやすい時期である。
- 発病穂は短稈となり、株当たり穂数は少なくなる傾向がある。
- 発病粒を潰すと中は焦げ茶色の厚膜胞子で充満している。
- この厚膜胞子が土壌中に残ることで、また、厚膜胞子が付着したこぼれ種がほ場に残ることが、翌年の発生源となる。
- 発病粒はなまぐさい臭いがする。海産物や干物を連想させるような臭いである。
- 臭いは乳熟・糊熟期が最も強く、成熟に従い低減していく。



写真A：発病穂は健全穂より短稈になる。

写真B：発病穂は芒がよじれたり変形することが多い。

小穂が開いて膨れた子実が外に露出することがある。



コムギ生産上の注意点について

＜次回の作付けに関して＞

○多発ほ場では2～3年水稻やオオムギなど、「コムギ以外の品目」へ転作を行う。畑地の場合、転作作物の栽培期間においても、こぼれ種由来の発病したコムギの株は抜き取り処分する。

＜発病の見られた地域でコムギを作付けする場合、または前作での発病が疑われた場合＞

- 可能な場合はワラの焼却や夏期湛水を行い、こぼれ種や厚膜胞子を死滅させる。
- 汚染されていない購入種子を使用する。自家採種は行わない。
- 種子消毒の防除効果が最も安定して高い。表1を参考に種子消毒を徹底する。
- 耕起はプラウによる反転耕が望ましい。ロータリーによる耕うんの場合、なるべく深く耕起する。また、耕起はは種直前ではなく、なるべく早い時期（前作収穫直後）に行なう。
- は種は適期に行う。は種遅れなどで低温期には種すると出芽までに要する期間が長く、感染好適に遭遇するリスクが高まると推測されている。
- 感染には湿潤な条件が必要であるため、ほ場の排水性を確保する。

表1 「コムギなまぐさ黒穂病」防除のための種子消毒剤

2024年9月11日現在の登録内容に基づく。使用時には最新の登録内容を確認し、これに準じて農薬は適切に使用すること。

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	使用回数
トリフミン水和剤	種子重量の0.5%	種子粉衣	は種前	1回
ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣	は種前	これらの剤 いずれかを
ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣	は種前	
ホームイ水和剤	種子重量の0.5～1.0%	種子粉衣	は種前	1回

＜来期、発病が確認された場合＞

- 収穫前に発病株を抜き取り処分する。
- 土壌や機械による拡散を防ぐため、発病ほ場の作業は最後になるよう、計画的に作業を進める。
- ほ場で十分に穂を乾燥させた後に収穫を行う。
- 共同で利用する乾燥施設には、発病ほ場の収穫物を持ち込まない。
- 収穫・乾燥・調製機械を使用した後は、掃除を徹底する。
- 収穫時に病害粒がこぼれると、翌年の病害発生源になる。罹病株のすき込みも同様である。発病株のすき込みは行わないことが望ましいが、やむを得ない場合は早期にプラウなどで深く鋤き込む。

収穫前のほ場で発生を確認したら、まずは農業農村支援センターやJAなどの技術指導機関に連絡しましょう。また、近隣で発生が見られた地域では、適切な対策を講じましょう。

(問合せ先)

長野農業農村支援センター 技術経営普及課

TEL：026-234-9536

【大豆】

1 適期収穫

大豆の成熟期は、葉や葉柄が落ち、莢が品種特有の色（褐色など）に変わり、振ると莢の中で子実がカラカラと音がし、茎がポキッと折れる状態です。

ハーベスタ、刈払機等で刈り取る場合と、コンバイン収穫の場合では、適期がやや異なるので注意しましょう（下表参照）。雑草や青立ち株（ウイルスや莢実害虫が原因）は汚粒の原因になるので、収穫前に抜き取ります。

<大豆に見られる主なウイルスの症状>



モザイク症状



縮葉症状



黄斑症状

*ウイルスはアブラムシによって伝播します。被害株が多い場合には次年度からアブラムシ防除を徹底しましょう。

また周辺にクローバーが発生している場合はウイルス病が増加するため、出来るだけ取り除きましょう。

<収穫機械と収穫適期>

収穫方法	収穫適期	水分	作業好適条件
ハーベスタ	成熟期～成熟後7日	子実水分 20～25%	晴天日の早朝、夕方、曇天日
刈り払い機		茎水分 50～60%	
コンバイン	成熟後7～14日	子実水分 18%以下 茎水分 50%以下	晴天日の朝露がなくな ってから夕方まで

○茎水分の目安：茎に緑が残っている（水分70%）莢と同じ褐色（水分60%）
やや黒みを帯びる（水分50%、手で折るとポキッと音がする）

○子実水分の目安：噛むとグニュと潰れる（水分20%）歯で音が無く割れる（水分18%）
噛み割るとカキッと音がする（水分15%）

集合花房

【ソバ】

1 適期収穫

(1) 手刈り、刈り払い機、バインダなどの場合

収穫適期は、主茎頂部の集合花房が黒化率50～60%の時です。

また、霜に遭遇したソバは脱粒しやすくなるので収穫には注意が必要です。早朝～10時頃の湿度の高い時間に収穫すると脱粒によるロスが軽減されます。刈り取ったものは直ちに島立乾燥を行い、後熟を図りましょう。



(2) コンバイン収穫の場合

収穫適期は成熟期（黒化率80%）の時期です。黒化率100%到達以降のソバは脱粒が急増するので、刈遅れに注意します。茎葉等の夾雑物が多い収穫物は、粗選機でゴミをのぞいた後、乾燥機に張り込んでください。

果 樹

【りんご】

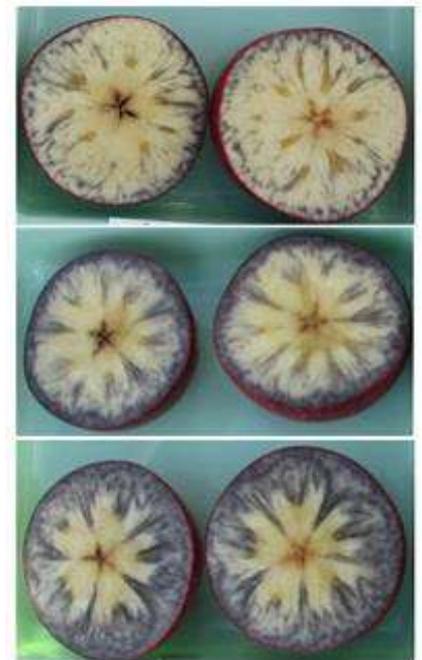
1 「シナノスイート」の収穫

収穫適期は、満開後 150 日前後から着色の良い果実から収穫します。果肉硬度が低めの品種なので、押し傷が発生しないように果実は丁寧に取り扱いましょう。低暖地では外観に比べ硬度の低下、デンプン消失が先行しますので、着色を待って収穫適期を逃すことが無いようにしましょう。一方、高標高地では食味が向上する前に着色が進むので、未熟果を収穫しないように注意します。

2 「シナノゴールド」の収穫

未熟果は酸度が高く食味は劣り、評価を下げることに繋がります。シナノゴールド本来の味になるまで、収穫は急がないようにしましょう。おいしいシナノゴールドの収穫目安は、次のとおりです。

- (1) 満開後日数：160～170 日以降
- (2) ワックスの発生：わずかに感じる程度
- (3) 甘みと酸味のバランス：糖度 14%以上・酸度 0.45%以下（糖酸比 32～35。糖酸比 35 になるには、糖度 15.5%の場合は酸度 0.44%、糖度 14%だと酸度 0.40%）
- (4) 着色：がくあ部まで黄色に着色（写真）し、「シナノゴールドカラーチャート 2007 年」で、標高 500m 未満では 3.5、標高 500m 以上では 4.0 以上が収穫適期の目安です（陽光面と陰光面の中間の赤道部で比色します）。
- (5) 収穫が遅くなると裂果発生率が高まるので、裂果が目立ってきたら収穫を急ぎます。また、果面ワックスの発生が多くなり、程度により果面に埃などが付着し汚れやすくなります。



3 「シナノホッペ」の収穫

着色や蜜入りし易い品種なので、早採りに注意が必要です。満開後 180～190 日、糖度 15%程度、酸度 0.4%程度、果肉硬度 17 ポンド程度、ヨード・デンプン反応指数 2 程度、食べてみて果汁が十分感じられ、カスっぽくない状態が収穫期の目安となります。

特に満開後 180 日を過ぎ、ヨード・デンプン反応指数が 2.5 を下回ってくると美味しく感じられる傾向にあります。

「シナノホッペ」のヨード・デンプン反応（上段から、指数 2 程度、同 2.5 程度、同 3 程度）

4 「ふじ」の着色管理

果実の肥大に伴い枝が下垂し、受光態勢が悪くなります。着色管理の前に支柱立てや枝つり等により受光環境の改善を行います。

葉摘みは、収穫開始予定の 30～40 日前から 2～3 回程度に分けて行います。強い葉摘みは、鮮明な色に仕上がらないばかりか、食味や来年の花芽にも影響します。1 回目は、果実に直接着いている果そう葉を数枚摘む程度とし、着色が進むにつれ、果実に十分光が当たるよう果実周囲の葉を除去する 2 回目を実施します。

【ぶどう】

収穫が遅れると脱粒や軸枯れ等が多くなり、出荷ロスが発生するばかりでなく出荷調整にも時間がかかります。

シャインマスカットでは「かすり症状」が発生する場合があります。発生原因とされることの一つに、収穫遅れがありますので、熟度を把握し、収穫遅れにならないようにします。

10 月は礼肥の施用時期となります。なたね粕等の有機質の肥料の場合は、遅くとも 10 月上旬までには施肥します。



かすり症の発生した
シャインマスカット

野菜

【アスパラガス】

平均気温が 20℃を下回るようになると萌芽が減少し、16℃を下回ると萌芽が停止するとともに、光合成で生産された養分は地下貯蔵根に転流していきます。この時期が翌年へ向けた重要な時期で、長野地域では 10 月中旬から 11 月下旬頃となります。茎葉が黄化するまでは適度にかん水を行い、養分が順調に貯蔵根に転流できるように心がけましょう。施設栽培では 10 月に入っても萌芽が続きます。

出荷しない場合は無駄に養分を消費させないために、若茎を 2～3 日を目安に切除し、過繁茂とにならないようにします。茎葉が黄化するまでは風通しのよい「適正な立茎数」で管理しましょう

8 月中下旬以降からやや標高が高い地域の一部や防除が上手くいっていないほ場で斑点病（褐斑病）の発生がみられています。また、アザミウマ類やダニの被害も目立つことがあります。これら病害虫が増えると、ぎ葉が早期に落葉し、十分な養分蓄積が行えません。進展しないように早め



写真 アスパラ茎に入ったオオタバコガ幼虫

【キュウリ】

抑制作型では収穫後半となり、日照不足や温度の低下もあって曲がり果や尻細果が増加する時期です。曲がり果など不良果は早めに除去し、草勢の維持を図ります。秋は日照時間が短くなりますので、老化葉の摘葉のほか、上位節側枝の葉は 1～2 枚摘葉して内部まで日が当たるようにします。応急処置として葉面散布剤を適宜散布するのもよいでしょう。

乾燥状態や草勢が低下すると、うどんこ病が発生しやすくなります。発生の著しい葉は摘葉し、伝染源を減少させて上で防除しましょう。また、散布ムラがないようにするとともに、薬剤耐性菌の発生を防ぐために同じ薬剤の連用は避け、ローテーション防除を基本としましょう。

【タマネギ】

定植適期は平均気温 12℃の時期（温暖地では 10 月下旬～11 月初旬、寒冷地は 10 月中旬～下旬）となります。定植後から根付くまで 20 日程度かかるので、定植時期は遅れないようにします。

作業の都合で定植まで数日間苗を保管したい場合には、湿度の低い納屋に濡れたムシロを敷き、苗を立てて並べ、乾かないように散水して軽い「こも」を上にかけておきます。また、定植時に苗が乾いている場合は、一度水に浸漬してから定植します。その際は、過リン酸石灰 30g を水 10 ㍓に溶かした液（約 300 倍）に浸漬して定植すると発根が促進されて初期生育が良好になります。

定植時の理想的な苗姿は茎径 6～7 mm 程度（甘 70 は 4～5 mm）、本葉 4 枚前後、茎の白い部分が短く、草丈 25～30 cm で葉が太く素直に伸びているものです。茎径が太すぎると、翌春に抽苔する危険性が高まり、茎径 4 mm 以下で細い場合には凍害で生育が不良になることがあります。

施肥は、a 当たり、堆肥 200～300 kg、窒素 2～3 kg、リン酸 2.5～3 kg、カリ 2～2.5 kg が標準で、この内の窒素とカリの半量とリン酸の全量は基肥として施用します。

【ハクサイ】

「ゴマ症」は体内の窒素過剰により主に発生する生理障害で、症状は中肋部表層にゴマ状の斑点を生じます。発生を助長する要因は①収穫の遅れ②窒素の多施用③肥効の遅れ④天候不順による日照不足などがあります（表1）。特に収穫が遅れ、過熟で外葉が老化すると多発しますので、適期収穫を大切です。特に、毎年発生する圃場や、窒素過剰となりやすい圃場ではやや早めに収穫しましょう。

表1

ゴマ症の発生と諸条件（長野県野菜栽培指標 平成26年発行 より）	
多発条件	有効と思われる対策
施肥窒素過剰	・適正窒素施肥量（15kg/10a前後） ・基肥を減らして、必要に応じて追肥・葉面散布 ・慣行性肥料・被覆硝酸石灰肥料の利用
日照が少ない・短日 →→光合成低下	・栽植密度を下げる ・終日日当たり良好なほ場で作付（特に秋ハクサイ）
外葉：小さい、少ない、立ち上がり早い →→光合成低下	・外葉が大きく（多く）、立ち上がり遅い品種 ・早晩生の異なる品種をうねごとに組み合わせる等の検討
品種・低温期（秋の収穫遅れ）・過熟 →→外葉での硝酸還元能力低下	・適期収穫 ・葉が大きく滑らかな品種
銅過剰 （銅殺菌剤、堆肥中の銅含有量）	・最低必要量の銅剤の散布 ・銅含有量の少ない堆肥を選択し、適正量を施用
土壌の過給態りん酸過剰	・りん酸肥料の無施肥または減肥
低温での長期貯蔵	・常温保管（流通）

【寒締め野菜】

秋冬季にパイプハウスなどを活用して、ホウレンソウやコマツナなどの軟弱野菜を収穫期に寒気にさらすことにより、食味が優れ栄養価が高まる「寒締め野菜」のは種晩限は、寒冷地で10月中旬、温暖地でも10月下旬が目安となります。

ホウレンソウは外気温4℃で生育が停止するので、寒冷地では11月中下旬、温暖地では12月初旬までに茎葉が収穫できる大きさまで育てる必要があります。寒締め期間は1～2週間を要するので12月上中旬以降に収穫期となります。

【越冬緑肥作物のは種】

冬作の緑肥作物は、ライムギやエンバクなどのムギ類が多く用いられますが、その効果は、①冬期間の土壌表面の風食防止、②土壌の物理性の改善 ③土壌病害の拡大防止・連作障害対策があります。

ただし、緑肥用エンバクは「黒斑細菌病」の感染植物となり、一部に罹病しやすい品種があります。次年度にアブラナ科野菜の栽培が予定されるほ場では、ライムギなどの黒斑細菌病が罹病しにくい緑肥作物を検討ください。

表2 主な緑肥作物の特徴

緑肥名	特徴	は種量	は種時期	すき込み時期
ライムギ	耐寒性が強く、土壌適応性も広い。 耐湿性はやや弱い。	8～10 (kg/10a)	9～10月	翌年4月～ 5月上旬
エンバク	ライムギより、耐寒性が劣り、寒地では越冬できない。 耐湿性はやや強い。	10～15 (kg/10a)	9～10月 (通常栽培では4 月上旬～9月上旬)	一般には、 は種2ヶ月～ 75日くらい

花 き

【トルコギキョウ】

1 抑制作型（6月～8月定植、9月～10月出荷）

（1）栽培管理

ア 温度管理

花芽分化適温、花蕾数、ブラスチングの発生等の品質面からみて、最低夜温 13℃程度になったら加温を開始します。開花促進を目的に加温する場合、通常より高めの 15～18℃を目標に管理します。

10月中旬以降は開花が遅れるため、日中の温度管理は通常より高めの 27～30℃を目標に換気を行い、開花の促進に努めます。

イ 換気

昼夜の温度差が大きくなるために、ハウスを閉めるようになると早朝の湿度が上がり、葉の枯れた部分へのかびの発生や花卉にシミが出たりします。朝早めの換気や暖房機、循環扇などの稼働により、施設内の空気を動かしてください。

ウ ブラスチング対策（蕾の枯死）

ブラスチングの発生要因として、日射量不足や低温といった生育環境と出蕾後の窒素の吸収量が影響しています。また、品種による差もあります。

低温短日条件では、光合成量の低下により花への光合成産物が少なくなり、ブラスチングが発生します。また、発蕾期以降の窒素量が多い場合には、側枝の小花にブラスチングの発生が見られます。対策として、品種選定や出蕾以降の過剰な窒素の溶出を防ぐための施肥管理が重要となります。

エ 水管理

切り花間近になると、品種によっては茎折れが出やすいものがあります。節間の間延びを防止するため、かん水を控えめにし、ハウス内を蒸らさないよう換気します。さらに出蕾以降は1日の温度差を小さくするようにします。

2 普通作型（1～2月定植、6～7月出荷）

（1）種まき

品種は早生～中生種の中から選定してください。市販の育苗培土を使用し、種子が微細で発芽率が良

いことを考慮して厚まきにならないよう注意します。288 穴、406 穴などのセルトレイを利用する場合は2～3粒まきにし、発芽が揃った頃に1本に間引きます。トルコギキョウは発芽に光が必要なので、は種後の覆土は行いません。

は種後は種子の流出防止と床面の乾燥を避けるため、発芽揃いまで底面から吸水させて管理するのがよいでしょう。

（2）温度等管理

発芽適温は 20～25℃です。このため、有孔ポリなどを被覆し、ビニールトンネル、夜間は保温マツ

トを被覆するか温床線等で加温管理してください。発芽が7～8割程度揃ったら有孔ポリ等を除去します。発芽後は、夜温 10～15℃、昼温 25℃を目標に管理します。育苗中にアザミウマ類が媒介するウイルス感染防止のため、殺虫剤の散布とともに、雑草・他品目との共存を避け育苗ハウスを清潔に保つ

よう心掛けてください。また、トンネル内の水滴が培土に落ちると立ち枯れが出やすくなりますので、資材は結露しにくい材質のものを使うなど注意してください。

【リンドウ】

1 リンドウ切り花後の管理

切り花後も来年に向けて、株の充実を図るため乾燥時のかん水、除草、病害虫防除を行います。来年の病気の発生を抑えるためにも、ほ場の残渣を片づけ、株もとから地際を丁寧に防除することを心が

けてください。10月頃、株もとにアブラムシが集まるので防除し、ウイルス病の感染を防ぎます。

(1) 茎葉処理

茎葉は完全に枯れた後、刈り取り処分します。

残さは、病害虫の越冬場所になるので、畑の周辺にそのまま放置しないようにしてください。

なお、1年目や枯れ上がりの極端に遅い品種

は無理に刈り取らず、翌年の春に刈り取って

ください。

積雪地帯を除いては、凍み乾きから株を保護

するため、敷きワラを行い、ネットを下げて風で飛ばされないよう抑えます。

多量の敷きワラには野ネズミが集まるので、翌春は早めに通路へ広げます。



茎葉の放置は翌年の病害虫発生に大きく影響します。

(2) 翌年の基肥施肥と越冬準備

茎葉刈り取り後、マルチを切り取った場所やマルチ下へ施肥します。

初年目は、窒素成分 3 kg/10a、2年目以降は窒素成分で 6 kg/10a とします。越冬前は、防寒を兼ねて、株上に 3 cm くらいの厚さの敷きワラをしてネットを下げて、押さえておきます。雪の多い地帯ではモグラやネズミの巣になり、株を持ち上げたり、かじったりするので敷きワラは行いません。

畜産

【飼料作物】 飼料用とうもろこしの収穫・調整のポイント

高品質サイレージ生産のポイントは、「適期収穫」「シャープな細断」「早期密封」「十分な踏圧」の4つです。

(1) 適期収穫

サイレージ用とうもろこしは、黄熟期に収穫すると栄養分が高く、水分量が65から70%となり発酵に最適な条件になります。黄熟期の判定は、「ミルクライン」による方法が簡単で確実です。雌穂の中程を折って子実粒を見ると、黄色と白の部分に分かれています。この境目が「ミルクライン」で熟度が進むにつれて子実粒の外側から中心にむかって移っていきます。この線が外側から40から50%になったところが黄熟期です。(図1)また、雌穂中央部分の実を爪で割ってろうそくのロウの様に割れる手ごたえが黄熟期、硬くて爪が立たないのが完熟期、糊状のものが糊熟期です。

刈り遅れなどで水分が少ない場合は酢酸発酵が起きやすいので、とくに踏圧や密封を確実にを行います。また、乳酸菌などの発酵促進資材を使うことで、品質向上を図ることができます。

(2) サイロの準備

詰め込み前にサイロ内の清掃をします。サイロ内にカビが残っているとそこからカビの原因になるので、石灰乳を塗布するか、新しいビニールを壁面に貼り付けておきます。バンカーサイロなどでは、取り出し中の二次発酵防止のため、隔壁用にビニールシートを数枚用意して詰め込み次に隔壁を作って幾つかに区切るようにします。

(3) 調整作業

サイロ内に空気の混入が少なく、早期に嫌気状態になるほど乳酸発酵が良好に行われます。そのため、詰め込み圧が高まるように「細断」「早期密封」「踏圧」を行います。切断長は細かいほど詰め込み密度が高くなるので、よく切れるように手入れたカッターの刃で10mmに細断します。

詰め込み作業は、できるだけ短時間に踏圧、密閉作業を終了させます。二日以上かかる場合は一日の作業終了時に必ずビニールなどで被覆してタイヤなどで抑えて空気を遮断し、発熱を防止します。バンカーサイロなどの場合、トラクターや重機で踏圧しながら作業し青汁が滲むぐらい十分踏み込むと、サイレージの品質向上に効果的です。水分65%から70%、比重0.8以上で密封したら、ビニールの上に重石を置いて材料と密着させます。



図1
飼料用トウモロコシの
ミルクライン
1/2 ミルクラインが収穫適
期（黄熟期）
（引用:子実コーン NAVI）

【酪農】牛検（牛群成績表）の見方 根室振興局より

1 検定日乳量階層情報

1 ページ目に初産・2産以上と、検定日数別に乳量と乳成分等の状態が記載されています。平均乳量を乳量階層図の中にするしをつけて、泌乳曲線を描き、49日以下と50日以上の間くらいにピークが来る山型の曲線になると理想的です。分娩後から泌乳ピーク期にあたる100日以下の時期に20kg以下の牛がいないかチェックしてみましょう。特に泌乳ピーク期にワクの中に入るような個体は問題です。

泌乳初期の乳脂肪率が5%を超えるような値になっているときは、牛が体脂肪を動員して乳を出している状態を示しています。分娩後・泌乳初期の乳蛋白率の数字を注意して見て下さい。乳蛋白率が3.0を切っているようであれば、乾乳期管理を見直してみましょう。これらの注意点にあてはまる事項や牛を見つけた場合はボディコンディションや餌の食い込みの様子を観察し対策を講じましょう。

2 繁殖管理情報

(1) 空胎日数・乾乳日数

平均目標として空胎日数：85～115日（分娩間隔 365～395日）、乾乳日数：60日程度を目指すようにしましょう。空胎日数が1日延びると1,000円から1,200円の損失といわれています。平均乾乳日数目標は60日程度ですが、特に39日以下の欄には数字の記載がないようにしましょう。乾乳期が50日より短くなると次期乳期の乳量の減少が起こります。

(2) 初産分娩月齢

初産分娩月齢が短くなることにより、更新のための必要育成牛頭数を少なくすることが可能になります。また、育成牛に掛かる経費（餌代、労力、施設）を節約できます。

【肥育牛】 肥育前期（「俵牛づくりに挑戦しよう」 より）

（１） 素牛導入当日

新しい敷料を入れた牛房で扉を閉めて、ゆったりと休ませます。新鮮な水と乾草を与えます。濃厚飼料は翌日からです。

（２） 導入時の処置

体重測定、健康確認、耳標確認、ビタミンA剤（50万から200万）、アイボメックトピカルなどのイベルメクチン系薬剤かサイデクチンなどのモキシデクチン系薬剤、ワクチン、皮膚病感染にネオサルセリンなどの硫黄剤かナナオマイシンなどの抗生剤の塗布、機械器具の消毒には塩化ジデシルメチルアンモニウム剤などの100～200倍、陰毛に白い付着があり尿石が心配ならカウストーンなどの投与、水槽の清掃を行います。

（３） 飼い直し

導入直後、濃厚飼料を食べない牛に対しては、給与後20分ぐらいしたら残った飼料を取り上げて、これを数回繰り返します。過肥で粗飼料が食い込めていない牛は、導入後2か月間は去勢で5kg、牝で4kgの粗飼料を食い込ませます。この時期、牝へのビタミンAの高い飼料は控えめに。3種類の粗飼料を1日3回に分け、カットしたものを食べる分だけ、常に新鮮なものを与えます。濃厚飼料は3～4kgが標準、大豆粕と糟糠類を高めに給与します。

【繁殖和牛】 分娩から育成（和牛子牛を上手に育てるために、畜産技術協会より）

（１） 子付き別飼いの初乳

母牛からの初乳給与は疾病予防の第1歩です。生後6時間から24時間自然哺乳しましょう。黒毛和牛の初乳はホルスタインに比較してIgGが多く含まれ、初乳製剤などと比べても仔牛への免疫を与える効果が高いです。母牛の乳房の張りや仔牛の口元などを観察し仔牛が確実に初乳を飲んだことを確認します。母牛の初乳が飲めないときや初乳の量が少ないときは、出生6時間以内に、凍結初乳や初乳製剤を1～1.5リットル与えます。

（２） 超早期親子分離での初乳

母乳を完全に飲ませない受精卵移植での和牛子牛は、仔牛が自力で立ち上がったなら、生時体重の10%（2～3リットル）ホルスタイン種の凍結初乳を与え、自力で飲めないときはストマックチューブを用いて生後6時間以内に、強制給与します。

通常、親子分離は分娩後6日以内の夕方に実施し、代用乳の哺乳回数は2回でよいですが、仔牛が小さいときは初期の10日くらいは3回給与します。10週齢まで0.5～0.7kg/日とし、体重35kg以下ではその後10日齢から体重50kgになるまで、十分な哺乳量1kg/日を確保します。体重35kg以上では0.5kg/日の哺乳量でも構いません。

（３） 別飼い飼料

仔牛には別飼い飼料として濃厚飼料と乾草を与えます。親子別飼いでは生後2週からフスマなどに慣れさせ、4週齢までにカーフスターター1日500g給与、ミルク4リットルとし、2か月齢でミルク5リットル、スターター3kgの摂取と、粗飼料を徐々に増やしていきます。

(4) 育成期

3か月齢でスターターを3kg食べるようになれば、育成飼料も1～1.5kg与えます。乾草は1.5kg程度与えます。ミルクは徐々に減らし、4か月齢では育成飼料4.5kg、粗飼料は飽食とし人工乳は切ります。

粗飼料を安定して食べさせるには粗飼料を小分けにして、ほぼ食べ切ってから濃厚を与える方が、時間はかかりますが良い方法です。8か月齢までに去勢仔牛230～250kg、雌仔牛200～230kgの体重では、配合飼料を去勢で4kg、雌で3kg、乾草2.5kg、ワラ0.5kg程度がおおよそのえさ量の目安になります。

きのこ

1 ダニの防除対策

ダニ類は虫体が小さいため肉眼で判別、発見することが難しい害虫です。雌は1日に10数個の卵を産み、卵は7～10日程度の短期間で成虫になるため、発見の遅れは甚大な被害となる場合があります。

ブナシメジでの主な被害は、培養・熟成期にビン内に侵入して菌床の食害、また、ダニに付着した害菌がビン内に運びこまれることによる害菌汚染であり、特に大きな問題となります。

害菌の発生は接種後から約10日間、ビン内へのダニの侵入を防げばほとんど抑えられます。また、トリコデルマ等の害菌に汚染されたビンを見つけた場合はダニの侵入を疑い、被害を拡大させないように早急に対策することが重要です。

(1) 生態

被害を及ぼすダニ類は、貯蔵食品や家畜飼料を食害する害虫ですが、培地等でも容易に繁殖します。

1) コナダニ科 (ケナガコナダニ)

体色は乳白色、体長は0.4mm前後で肉眼では白い粉状に見える。歩行移動が中心で、パレットや床に近い培養ビンにおいて害菌汚染が多く見られる。

2) ヒナダニ科 (サジボウヒナダニ)

体色はオレンジ～褐色、体長は0.2～0.3mm前後とやや小型で、個体が集合したときはオレンジ色～赤褐色に見える。ネズミ、昆虫や風によって移動する。

3) ホコリダニ科 (ナミホコリダニ)

体色は乳白色、長卵形、体長は0.15～0.2mm前後でヒナダニより小型で、移動能力は他のダニより劣る。主に風に飛ばされたり、落下したりして移動している。



<ケナガコナダニ>



<サジボウヒナダニ>



<ナミホコリダニ>

(2) 予防対策 (通常時)

- ・トリコデルマ等の害菌汚染ビンを発見した場合は直ちに抜き取り、殺菌釜で殺菌して掻き出す。
- ・パレットは殺菌釜で殺菌してから使用する。
- ・割れビンの廃棄、及びキャップのウレタンが硬化したものは交換する。
- ・培地混合の際は、飛散する粉塵を施設内に広げないよう、カーテン等の間仕切りや覆いを設置する

とともに、施設内の培地くずや埃(ほこり)などは、こまめに清掃するようにする。

- ・施設内に動物や虫を入れないようにする（鳥の巣はダニの温床となるので除去する）。
- ・培養室内の環境は、温度はブナシメジ栽培では22℃以下に保つことを基本とし、空気の循環を確保するとともに、湿度は原則として、65%前後に保つ。

（3）被害確認後の対策

- ・早急に汚染ビンを取り出し、殺菌釜で殺菌・殺虫処理する。
- ・パレットを殺菌処理する。
- ・室内の湿度を70%以下に下げ、ダニに不適な環境とする。
- ・培養室は次亜塩素酸等を用いて拭き掃除を行う。
- ・接種後はコンテナごとポリマルチで被覆し10日間程静置する

（写真）。また、出来るだけ清潔な部屋で10日前後培養した後、通常の培養室へ移動する。

- ・接種直後の培地は風の当たらない所へ置き、風下には置かない。
- ・被害発生場所から汚染されていない場所への移動は避ける。
- ・人や靴、フォークリフトのタイヤ等へのダニの付着に注意する。



2 台風等接近にともなう対応

台風等接近した場合に、停電の発生、周辺部からの施設内への雨水等の流入などのリスクが想定されます。発生時の対応について、日頃から確認しておきましょう。

（1）停電が発生した場合

- ・停電が発生し室温と外気温の差が大きい場合は、短時間であればドアの開閉を控える。
- ・停電が長時間にわたる場合は、施設内の温度上昇に留意して適宜、換気を行う。

（2）施設内に冠水・浸水した場合

- ・電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。
- ・収穫できるものは、早めに収穫、包装する。
- ・生育中、水がかかった生産物は速やかに施設外へ搬出し、処分する。
- ・室内の浄化を図るため、施設を空にして水で泥等を洗浄する。
- ・洗浄後は、除菌剤を散布し、乾燥させる。なお、除菌剤散布後は、十分換気してから培養基を搬入する。（直後の搬入は避ける。）

長野県農業士協会の北信ブロック研修会を開催しました

8月20日に、県農業士協会の北信ブロック研修会を長野市東和田で開催しました。

開催支部の当上高井長野支部を始め、他支部からも参加があり、総勢17名で「水稻“にじのきらめき”栽培ときゅうりの細霧冷房」についてほ場視察と情報交換会を行いました。

水稻の「にじのきらめき」は、国が育成した高温耐性に優れ、収量性が高い新品種で、長野管内で栽培面積が増えています。本年は、従来より1.5倍肥料を増加し、収量・品質に影響がないか試験を行っており、コシヒカリより浸種や生育期間が長いなど異なる部分がありますが、適切な管理により順調に生育しています。

きゅうりの細霧冷房では、野菜花き試験場と協働して試験を行っています。低圧ミストで葉が濡れない程度の霧を噴射し、ハウス内の湿度を上げることで、植物体の光合成効率を上げる働きがあります。導入コストが比較的安価であり、参加した農業士からは、導入を検討したいといった声が上がりました。

近年、高温障害による生育不良や品質低下が懸念される中、高温に対応する品種転換やミストの導入などを検討するための、より良い研修会となりました。

(地域第一係 松橋)



にじのきらめきを説明



細霧冷房のシステムの説明

地域のできごと

R6.10

農村女性ネットワークさかきと 長野市農村女性ネットワーク研究会の交流会が行われました！

9月11日、坂城町役場にて農村女性ネットワークさかき（以下:NW さかき）と長野市農村女性ネットワーク研究会（以下:NW 研究会）の交流会が行われました。この交流会は、NW 研究会の視察研修の一環として計画されていましたが、「同じ農村女性ネットワークだけれど、お互いにどのような活動をしているのか知りたい！」とのことで開催されました。

当日は、全体で31名（NW 研究会:22名、NW さかき:7名、事務局4名）の参加となり、両会会長から活動内容の説明後、4人1グループとなりそれぞれ意見交換をしました。「この活動はどうやってやっているの？」や「会員増やすためにどんな活動しているの？」など、机ごと様々な会話が聞こえました。

NW さかき会員手作りのお漬物やお菓子を食べながら30分程意見交換をした後、一緒に味噌づくりを体験しました。NW 研究会が持参した材料をビニール袋に入れて揉むことで、手も汚れずに味噌づくりが体験できました。NW 研究会の会員からは、「これなら小学生も楽しく簡単に味噌づくりが体験できるよ」との説明がありました。

沢山意見交換をし、お互いにこれからの活動内容を見直す機会にもなったと思います。これからもときには連携し切磋琢磨しながら活動に励んでほしいです。

（地域第二係 野溝）



会長から活動内容発表



味噌づくりを体験



集合写真



NW さかき会員手作りのお茶菓子

STOP!

農作物盗難



～大切に育てた農作物を盗難から守りましょう～



ポイント1 農作物の保管・管理

- 定期的な見回りを行いましょう。
異変があったら、すぐに警察に通報しましょう。
- 不審者の特徴、不審車両の色・ナンバーをチェックしましょう。
- 腕章や農作業車両にステッカー等をはるなど、農作業従事者である目印をつけましょう。



ポイント2 園地への侵入防止対策

- 園地にネットや柵を設置しましょう。
- 「盗難注意」「立入禁止」等の看板やのぼり旗を設置しましょう。
- 防犯カメラやセンサーライトを設置しましょう。

長野県農政部・長野県警察

※本製品は、皆様から寄せられた「ふるさと信州寄付金」を活用しています

応募期間 令和6年
10月18日(金)

まで

※農業環境対策課に直接提出の場合
11月15日(金)まで

令和6年度

未来につながる

持続可能な農業推進コンクール

本年度からGAP部門及び有機農業・環境保全型農業部門の隔年開催とし、令和6年度においては「GAP部門」のみ募集いたします。

表彰の内容

農林水産大臣賞

1点以内

農産局長賞、畜産局長賞

3点以内

個別経営の部、団体の部、
人材育成の部

※人材育成の部は、農業教育機関の取組が対象になります。



▲令和4・5年度 受賞者の皆様



過去の受賞者の取組の詳細はこちら
GAP部門▶



令和5年度の農林水産大臣賞の受賞者のとりくみ

GAP部門

すずなり

株式会社 鈴生（静岡県）



・独自の栽培管理システムを活用し、出荷物に二次元コードを添付して取引先に専用IDとパスワードを付与。取引先が直接栽培情報を確認可能に。



・団体事務局が毎月発行しているNEWS LETTERで、**事故件数や事故写真等を共有**。作業員へ労働安全への意識付けを行い、**事故件数が約5割減少**。

・農業者をはじめとして学生や行政等を対象に、事業の参考や知識の向上につながるような視察会や講演を年間**30回以上開催**。



本コンクールとは

持続可能な農業の確立を目指し意欲的に経営や技術の改善、普及等に取り組んでいる農業者、農業団体、流通・加工業者、自治体、教育機関等を表彰します。自薦・他薦は問いません。

対象者

第三者認証を備えたGAP（GLOBALG.A.P.、ASIAGAP及びJGAPをいう。以下同じ。）を取得、又は「国際水準GAPガイドライン」（令和4年3月8日策定）に基づく国際水準GAP（以下「国際水準GAPガイドラインの準拠確認を得たGAP等」という。）を実践し、かつ、継続的な国際水準GAPの取組を通じて、農業経営の改善や持続可能性の確保等について顕著な成果を上げている農業者、農業団体、自治体、教育機関等。

また、第三者認証を備えたGAPを取得、又は国際水準GAPガイドラインの準拠確認を得たGAP等を実践している農場の農畜産物（以下「GAP農畜産物」という。）の消費拡大や普及推進に取り組み、顕著な成果を上げている流通・加工業者、自治体等。

応募方法

- ◆ 応募書類は、以下の農林水産省ホームページからダウンロードできます。

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/r6_konkuru.html

- ◆ 応募書類に必要事項をご記入の上、下記の応募先にお送りください



応募先

長野農業農村支援センター農業農村振興課 026-234-9514
nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp

たくさんのご応募
お待ちしております！

各地方農政局等問合せ先



コンクール全般に関するお問合せは、お住まいの地域の各地方農政局等をお願いします。

地域	お問合せ先	連絡先（電話番号）
北海道	北海道農政事務所 生産経営産業部 生産支援課	011-330-8807
東北	東北農政局 生産部 生産技術環境課	022-221-6214
関東	関東農政局 生産部 生産技術環境課	048-740-0437
北陸	北陸農政局 生産部 生産技術環境課	076-232-4893
東海	東海農政局 生産部 生産技術環境課	052-746-1313
近畿	近畿農政局 生産部 生産技術環境課	075-414-9722
中国・四国	中国四国農政局 生産部 生産技術環境課	086-230-4249
九州	九州農政局 生産部 生産技術環境課	096-300-6275
沖縄県	内閣府 沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課	098-866-1653
農林水産省 農産局 農業環境対策課		03-3502-8111（代表） (GAP) 内線 4852

応募者募集

都道府県に提出する場合：10月18日（金）まで
農業環境対策課に提出する場合：11月15日（金）まで

主催

農林水産省

あなたも環境にやさしい農業に取り組んでみませんか

環境にやさしい農業認定制度

長野県



信州の環境にやさしい農産物認証

化学肥料及び化学合成農薬について、「地域慣行施肥量」及び「地区化学農薬使用回数」の50%以上を削減した方法で生産された農産物

環境負荷低減事業活動実施計画の認定(みどり認定)(※エコファーマーに代わる認定制度)

土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組み ほか

有機JAS



- 1 化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
- 2 遺伝子組換え技術を利用しない
- 3 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する
農業生産の方法を用いて行われる農業

国

環境負荷低減事業活動実施計画の認定(みどり認定)を受け、エコファーマーマークを使って農産物を販売しませんか



■エコファーマーマークは実施計画に基づいて生産した農産物の包装容器、チラシや名刺、ホームページ等に表示することができます。

従来のエコファーマーと同じ取組み(土づくりと一体的に行う化学肥料および化学合成農薬低減)で認定を受け、エコファーマーマーク使用届を提出いただきます

新法の施行に伴い、エコファーマーの認定制度が代わりました

■ **エコファーマー根拠法令**
 持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律
 (持続農業法) <廃止>



■ **環境負荷低減事業活動認定の根拠法令**
 環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律
 (みどりの食料システム法) <新法>

— 環境負荷低減事業活動認定について、エコファーマーとの違い —

	エコファーマー (持続農業法)	環境負荷低減事業活動認定 (みどりの食料システム法)
<p>認定を受けるために必要な取組内容</p> <p>-認定される取組について、地球温暖化防止に係る取組等が増えます-</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組 	<p>※以下のいずれかの取組で認定可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組 ・温室効果ガス削減の取組 ・土壌を使用しない栽培における化学肥料および化学合成農薬低減の取組 ・畜産由来の窒素、リンその他の環境負荷原因物質の量の減少の取組 ・土壌への炭素貯留の取組 ・生分解性プラスチックの使用またはプラスチックの排出抑制の取組 ・生物多様性保全の取組
<p>融資や税制の特例措置</p> <p>-特例内容が拡充されます-</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業改良資金の償還期間の延長 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業改良資金の償還期間の延長 ・環境にやさしい効果のある対象設備(機械)の導入の際、特別償却が可能※ <p style="text-align: right;"><small>※令和8年3月末まで</small></p>
<p>認定期間満了時の継続・再認定の方法</p> <p>-継続取組も認定可能です-</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組に加え、新たな技術の導入で認定可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の取組継続による認定が可能(新たな技術の導入が必須ではなくなりました)

— 申請手続き —



★申請にあたり準備していただく書類

- ・認定申請書
(住所や氏名等、申請される方の基本情報の書類)【様式第3号】
- ・計画書
(環境負荷低減活動実施計画,どんな活動をするのかの書類)【様式第1号、2号】
- ・添付書類
(土づくりと一体的に行う、化学肥料および化学合成農薬低減の取組内容で申請を行う際は、土壌診断結果が必要です)

※税制特例措置希望の方

対象機械を以下より確認いただき、計画書に型式を記入ください。



https://www.maff.go.jp/j/ka-nbo/kankyos/seisaku/midori/midorihou_kibann.html

環境負荷低減事業活動認定
 長野県ホームページ



問合わせ先 長野農業農村支援センター TEL: 026-234-9514

農業農村振興課

E-Mail: nagano-nosei@pref.nagano.lg.jp

信州の環境にやさしい農業定着・拡大 支援事業 申請者募集中！

(信州の環境にやさしい農産物認証取得チャレンジ・ステップアップ支援事業(推進事業))

長野県では、化学肥料や化学合成農薬を低減した環境にやさしい農業の拡大や発展、
「信州の環境にやさしい農産物認証」の取得に向けた取組の必要経費を支援しています。
環境のやさしい農業の波及に向け地域で活動されている皆さま、ぜひご活用ください！

【申請受付期間】令和6年12月20日(金)まで

※本年度予算の上限に達し次第、受付終了

【申請対象者】

「信州の環境にやさしい農産物」について
“R6年産認証を受けている” または
“R7年産認証の申請を予定している”方

支援金額

定額5万円

(※11名以上の取
組で8万円)

「信州の環境にやさしい農産物認証」って？

地域の一般的な栽培方法と比べて、化学肥料と化学合成農薬の使用量を原則50%※
以上減らしてつくられた農産物を「信州の環境にやさしい農産物」として長野県知
事が認証する制度です。

認証された農産物には、認証票(シンボルマーク)の使用が許可されます。

※果樹の一部品目においては、30%の特例があります。



どんな取組みに使えるの？

- ・環境にやさしい農業の栽培技術講習会
- ・環境にやさしい農業に先進的に取り組む農業者や地域の視察
- ・環境にやさしい農産物を取り扱う店舗や直売所等の視察
- ・環境にやさしい農産物のPRや販路拡大に向けた商談会やマルシェ等への参加 など
「こんなことにも使えますか？」という取組みがありましたら、随時御相談ください。



←応募方法や信州の環境にやさしい農産物認証の詳細は、長野県HPをCheck!

※アクセス解析のためにCookieを使用しています。

アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

◎申請にあたっては、お近くの農業農村支援センターまでご相談ください！

＜お問い合わせ先＞

○佐久農業農村支援センター	TEL : 0267-63-3147	○上田農業農村支援センター	TEL : 0268-25-7126
○諏訪農業農村支援センター	TEL : 0266-57-2913	○上伊那農業農村支援センター	TEL : 0265-76-6813
○南信州農業農村支援センター	TEL : 0265-53-0413	○木曾農業農村支援センター	TEL : 0264-25-2220
○松本農業農村支援センター	TEL : 0263-40-1916	○北アルプス農業農村支援センター	TEL : 0261-23-6511
○長野農業農村支援センター	TEL : 026-234-9514	○北信農業農村支援センター	TEL : 0269-23-0209

10月の予定

当支援センターで今後予定している、情報交換会や講習会等の日程です。
詳しい内容やお申し込みについては、各担当へお問い合わせください。

名称	日時、場所	対象者	概要	お問合せ先
特定家畜 防疫演習	10/28(月)終日 小川村	市町村、 JA、家畜関 係団体、県	<ul style="list-style-type: none">・危機発生時の情報伝達訓練・発生農場での貿易措置演習	026-234-9514(和田)

